

中国における外資銀行の収益率の低下 ——金融規制緩和の必要性——

一橋大学大学院生 郎 壺

2006年12月、人民元にかかわる業務を外資銀行へ開放させてから、中国における外資銀行は業務を速やかに展開してきた。本稿は、中国における外資銀行を対象として、2003年以後、外資銀行の成長を観察する。外資銀行の資産と収益の構成を、国内銀行と比べて、外資銀行の収益率が低下する理由を明らかにして、外資銀行と中国金融市場の先行きを指摘したい。

結果としては、外資銀行のレバレッジと金融資産の保有比率は低いこと、外資銀行の収益の中に、金融サービスの分は案外に低いこと、二つは収益率低下の原因である。中国において、すべての銀行は、利息の収益率がほぼ同じレベルなので、国内銀行と外資銀行の収益率の差異は、手数料による収益の差異が存在しているからであると考えられる。

金融サービスの業務を十分に展開していない原因は、当局の外資銀行に対する金融規制であると考えている。証拠の一は、金融資産の保有比率は低い。当局の金融規制により、外資銀行は、国債と企業債の発行と売買、株式、住宅融資、個人への金融サービスを行うことができない。企業に対する貸出以外の業務を取り扱えないため、金融資産の保有比率は低い。証拠の二は、預金-負債比率は低い。預金金利を自由に決めることができないため、預金者にとって、支店数の少ない外資銀行は、優れる選択ではない。いずれにしても、Dunning（1977）と現実の対立を解釈できるのは、中国における厳しい金融規制にほかならない。

金融システム改革の方針により、外資銀行の中国金融市場への進出には、先進国の管理技術と金融サービスの導入は期待されている。金融規制による収益率の低下は、外資銀行に消極的な影響を与える。中国金融市場の成長のため、一刻早めに金融規制緩和を行う必要がある。

金融規制緩和の必要性にもう一つの証拠は、先行研究により、外資銀行の進出は中国金融市場の規制緩和を狙うということである。低い収益率の下で、外資銀行の数と規模の急成長の原因は、現在の利益ではなく、将来に対する期待を持つことである。実質的な金融規制緩和を行わなければ、期待される将来の利益が見えないため、外資銀行の進出の傾向は変わる可能性がある。

キーワード：中国金融市場、海外直接投資、金融規制